| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 専門演習Ⅲ　　Seminar III | | | | | | |
| 科目担当者 | 奥村 憲博　　OKUMURA Norihiro | | | | | | |
| 単位数 | 4 | 配当年次 | 4年 | 授業形態 | 演習 | 開講学期 | 通年 |
| 履修学部・学科［区分]<br>他学部他学科履修 | 経営学部・経営学科［専門教育科目　演習］<br>他学部他学科履修× | | | | | ディプロマポリシーとの関連 | (3)(4) |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 本ゼミでは、小林道憲『複雑系の哲学』(2007) と広井良典『科学と資本主義の未来』(2023) を基に、複雑系の視点から「科学と資本主義の未来」を考察する。複雑系理論の概念を学びつつ、現代資本主義が抱える環境や経済の課題を分析し、持続可能な社会や経済の可能性を議論する。グループワークや発表を通じて理解を深め、統合的な視野を養う。 |
| 授業の到達目標 | ①　複雑系の理解<br>複雑系理論の基礎概念（非線形、カオス、自己組織化など）を理解し、その自然科学や社会科学、経済学への応用を考察する力を養う。<br>②　資本主義の再考<br>広井良典及び原丈二の議論を通じて、現代資本主義が抱える課題を複雑系の視点から分析し、持続可能な未来の経済像を模索する。<br>③　論理的思考と統合的視野<br>複雑系と資本主義に関する具体事例や提言を議論し、グループ発表を通じて論理的思考力や表現力を高め、異なる領域を統合的に考察する力を身につける。 |

授業計画・内容

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 16 | 資本主義の論じ方 |
| 2 | 存在とは何か | 17 | 鎮守の森と生態都市 |
| 3 | 存在から関係へ | 18 | 医療・超高齢社会と科学 |
| 4 | 関係から生成へ | 19 | 生命・情報・エネルギー |
| 5 | 相互連関 | 20 | 科学予算と世代間配分 |
| 6 | 相互連関の論理 | 21 | グローバリズムの終焉 |
| 7 | 複雑系 | 22 | 日本と世界を滅ぼす株主資本主義 |
| 8 | 複雑系の中の自由 | 23 | アメリカでアメリカモデルの限界を知る |
| 9 | 複雑系の思想 | 24 | 公益資本主義とは？ |
| 10 | 複雑系の科学の基礎づけ | 25 | 公益資本主義の 12 のポイント |
| 11 | 『火の鳥』2050-未来を考えるとは | 26 | 公益資本主義・実践編――モノづくり最適国家 |
| 12 | なぜいま「幸福」が社会的テーマとなるのか | 27 | 卒業研究の発表 1(ゼミ生 3～4 人) |
| 13 | 科学と社会の共進化 | 28 | 卒業研究の発表 2(ゼミ生 3～4 人) |
| 14 | 経済成長と科学 | 29 | 卒業研究の発表 3(ゼミ生 3～4 人) |
| 15 | ケアとしての科学 | 30 | 卒業研究の発表 4(ゼミ生 3～4 人) |

| | |
|---|---|
| 授業外学修<br>(事前学修) | 毎回、各自の卒論関連ペーパー等のプレゼン及び卒論進捗報告を実施するのでその準備対応を行う（毎週 2 時間程度）。 |
| 授業外学修<br>(事後学修) | 毎回，各自の卒論関連ペーパー及び卒論進捗報告に対するコメント対応を行う（毎週 2 時間程度）。 |

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応

| 成績評価方法 | 評価比率 | 到達目標との対応 |
|---|---|---|
| 卒論 | 60% | ①、② |
| ゼミでのプレゼンテーション | 40% | ①、② |

| | |
|---|---|
| 成績評価基準 | 秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合<br>優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合<br>良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合<br>可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合<br>不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合 |
| 教科書 | ・小林道憲〔2007〕，複雑系の哲学，　麗澤大学出版会<br>・広井良典〔2023〕，科学と資本主義の未来，　東洋経済<br>・原丈二〔2017〕，公益資本主義～英米型資本主義の終焉～，　文春新書<br>上記教科書（輪読所）はゼミから貸与する。 |
| 参考文献 | |
| その他 | |